

令和元年度 全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果の分析について

平成31年4月18日に中学1・2年生を対象に「佐賀県学習状況調査」、中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。

関係教科及び学習・生活に関する調査結果を分析し、改善に向けた取り組み事項をお知らせします。今後、さらに生徒の学力向上を図っていききたいと考えています。

1年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は県平均を下回っている。到達度においても、十分達成している生徒が少なく、要努力の生徒が多い。内容・領域別に見てみると、「話す・聞く」「書く」「語句に関する知識」はおおむね達成しているが、「読む」「漢字の書き」については、かなり落ち込んでいる。	「漢字の書き」については、毎日の課題を充実させることと小テストを効果的に組み合わせる力をつけていきたい。「読む」ことは、文章のジャンル別（小説、随筆、説明文）にどのように読むのか「読み方」の指導を充実させていきたい。朝読書やコラム学習を継続させ、文章を読むことへの抵抗を少なくしていくとともに、読むことへの関心を高めることを目指したい。
数学	教科全体の到達度分布を見ると、十分達成が県平均に比べ少なく、要努力の生徒が多い。領域別では全領域で県平均より下回っており、特に「量と測定」の落ち込みが大きい。観点別でも全観点で県平均を下回っており、特に「考え方」の落ち込みが大きい。問題別では、分数に関するものと、比較的長文を読んで数量の関係を理解する必要のある問題の正答率が特に低い。	数式の領域では、分数に苦手意識をもつ生徒が多いので、新しい内容を学習する際にはまず整数の範囲で理解させる。一方、折に触れて分数の学習を繰り返すことにより、その概念を理解させ、計算の習熟を図る。関数や図形では、小学校の学習内容を復習することにより既習事項の概念形成を促しながら、中学校内容の学習につなげていきたい。

2年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は県平均をやや下回った。内容・領域別正答率を県の正答率と比較してみると、「漢字の読み」「語句に関する知識」は県をやや上回り、「話す・聞く」「読む」はやや下回った。「書く」「漢字の書き」では県を大きく下回った。また、「読む」の「活用」に関する問題においては無解答率が高かった。	「書く」については、授業の中に書く活動を意図的に取り入れ、単元ごとに様々な文章を書くことに取り組んだ。今後は示された条件を意識して、条件作文を書く活動に取り組んでいく。また、「学び合い」で生徒同士がお互いの文章を添削したり推敲したりする場を設定し、書くスキルの向上を図る。漢字に関しては、毎日の課題に継続して取り組むとともに、小テストで確認し定着を図りたい。また、学校生活の様々な場面で文章を書くときに、既習の漢字を意識して使わせるようにしたい。
数学	全体として県平均を下回った。内容・領域別の正答率を見ても、全ての領域で県平均を下回り、特に「関数」の分野の正答率が低かった。観点別の正答率をみると、「見方や考え方」において、到達基準のおおむね達成にも到達していなかった。	TT授業を実施し、生徒のつまずきにいち早く対応できるようにしている。学び合い活動を適宜入れながら、多くの考えを共有したり教え合ったりする雰囲気を作る。また、単元内容の定着のために小テストや演習の時間をとる。また、毎週木曜日にワークの課題を出すことで、学習習慣や基礎学力の定着を図りたい。

3年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は、県平均を下回る結果となったものの、「書くこと」においては県平均を上回り、特に「根拠を明確にして書く」問題では全国平均も上回っていた。一方で、県平均を大きく下回ったのは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」である。封筒の宛名書きの問題では、3割近くの生徒が不正解もしくは無回答となっており、日常生活における手紙を書く習慣の廃れも影響していると考えられる。	まずは、生徒の語彙の拡充をめざし、教科書以外でも様々な文章に出会えるよう、毎週の課題を工夫する。特に、説明文などの論理的構成の文章を読み重ねることで、文章全体の内容や要点を上手く読み取れるようにしていく。また、表現技法や仮名遣いなど、既習事項でも未だに定着が不十分なものが見られるため、漢字以外でも小テストを加えることで、様々な事項での知識の定着を図る。活用問題にも適宜取り寄せ、資料や対話での相手の発言を的確に読み取る力をより一層つけていきたい。
数学	全体の正答率は、県平均を下回る結果となったが、「関数」の領域は県平均を上回り、「確率」の問題は全国平均を上回ることができた。これは昨年度より明らかに向上した結果であった。また、無解答率が高かったのは、「反比例の表から、xとyの関係を式で表すこと」、「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」であった。	数学の基礎力となる「知識・理解」「技能」の向上のために、授業においてはチーム・ティーチングでの指導を行う。無解答率を低くするために、「学び合う活動」の時間を十分確保し、他者に説明する場面設定を授業中に確実に実行する。また、週末やテスト前には問題集やプリントを用い、既習内容の復習を徹底し、学習内容の定着、数学力の向上を図る。
英語	全体の正答率は、県平均を下回る結果となった。また、全ての領域においても、県平均を下回った。特に「聞くこと」「話すこと」の分野の正答率が低かった。一方で、「書くこと」においては「与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文」と「学校を表す2つのピクトグラムの案を比較して、どちらが良いか理由とともに意見を書く」問題は県平均を上回った。	基礎学力の定着のために、課題の出し方を工夫し、家庭学習の充実を図る。授業においては既習事項の復習に重点をおいた帯学習を行う。小テストを計画的に実施し、言語・知識の定着を図る。また、チーム・ティーチングの特性を活かして、教師がすぐに添削や助言をすることによって、「書くこと」「話すこと」の力を向上させていきたい。